

河村新城跡

主催：公益財団法人かながわ考古学財団
共催：山北町教育委員会

河村新城跡の発掘調査

足柄上郡山北町川西に所在する河村新城跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴い2018年12月から発掘調査を実施しています。

河村新城跡は、JR東海御殿場線谷峨駅の北西約1.6kmに位置する城山(標高347m)に位置します。西丹沢山地から南流する河内川、静岡県小山町から東流する鮎沢川が合流して酒匂川となる地点の西側にあり、城山の北側には塩沢川が東流し、三方を河川に囲まれた山稜東端部にあります。丘陵の広さは、東西900m、南北800m、河川との比高差150mに及び、断層地塊に立地しています。

江戸時代に編纂された『新編相模国風土記稿』に「城蹟図」が掲載され、本城跡・大手跡・蔵曲輪・櫓臺跡・裏門跡・大手跡・遠見番所跡・二之曲輪・鮎窪などがその規模とともに記されています。また、これらの郭跡は長さ・幅・深さを記す堀跡によって縦横に囲繞されていたことがわかります。

1998年には山北町史編纂事業の一環として試掘調査を行い、障子堀・石積み遺構・道路状遺構などを確認していましたが、今回の調査は、河村新城跡としては初めての本格的な発掘調査となります。



遺跡位置図

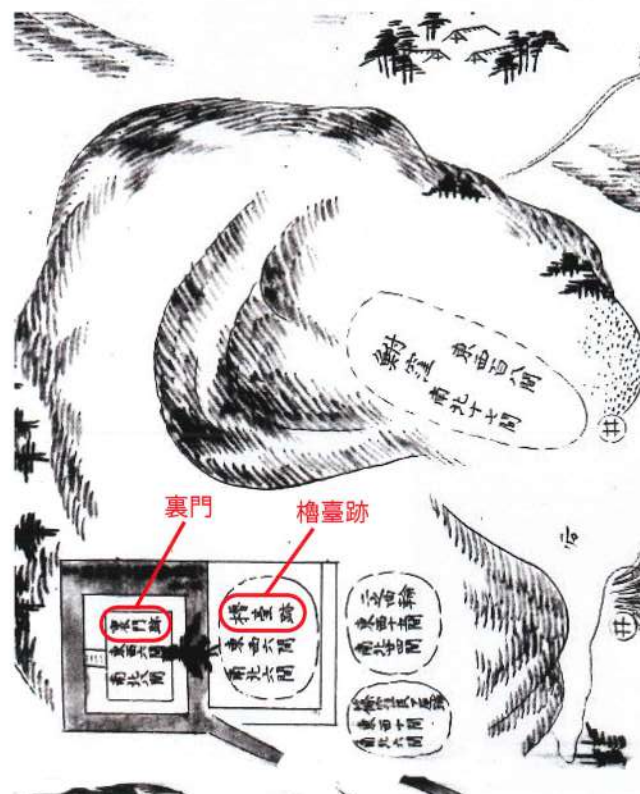
これまでの主な発見遺構と出土遺物

—発見遺構—

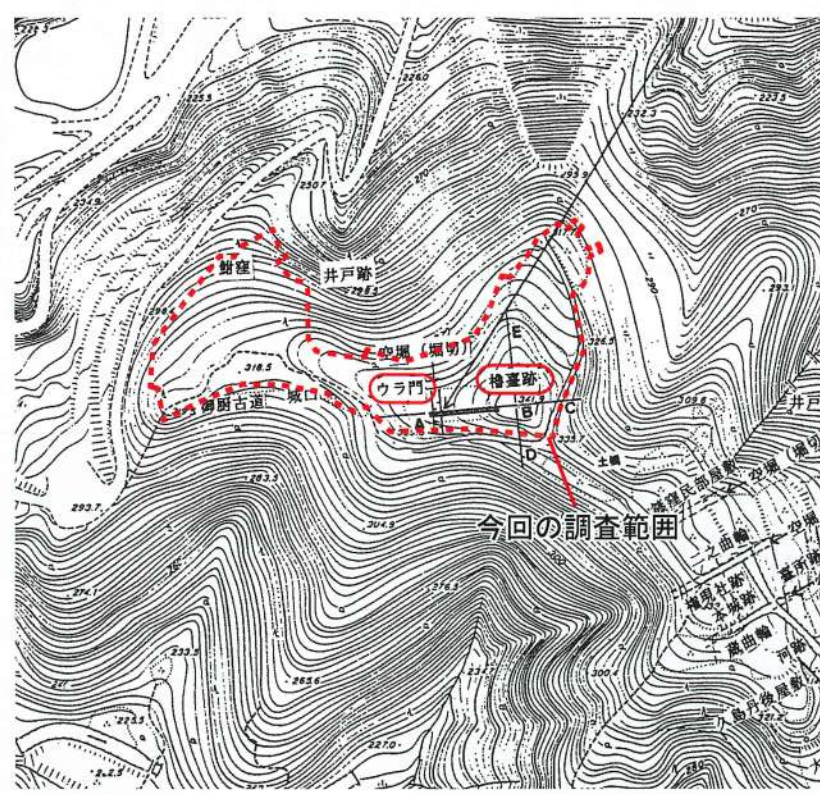
近 世：畝状遺構、土坑、ピットなど
中 世：堀、曲輪、切岸、掘立柱建物
土坑、ピットなど

—出土遺物—

近 世：陶磁器など
中 世：陶磁器・かわらけ・金属製品(釘・銃弾)・銭貨・炭化種子や魚骨など
縄文時代：縄文土器、石器など



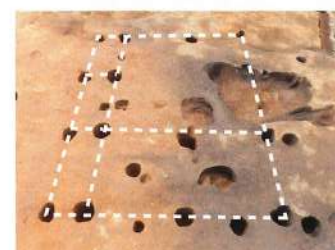
河村新城古絵図および郭群想定図(『山北町史



資料編原始・古代・中世』第290(左)・292図(右)を一部改変・加筆)

住

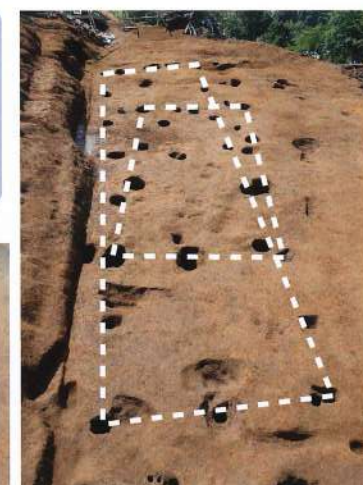
建物と考えられる遺構が見つっています。下の写真は掘立柱建物の跡です。柱間の距離や穴の深さ、柱並び、底の有無などに差がみられます。このことから一定の構造や格式に違いがあったことがうかがわれます。



掘立柱建物(底付き)



掘立柱建物(総柱)



掘立柱建物(側柱)

器

戦国時代は陶磁器の流通が活発となります。大陸との貿易によって、陶磁器が輸入され、常滑や備前、瀬戸・美濃など、各地の窯で大量生産が行われました。

河村新城でも、皿、碗、すり鉢、甕、壺などの陶磁器や、かわらけと呼ばれる土師質皿が出土しました。これらの供膳具や貯蔵具などから、当時の生活の一端が想像できます。



甕(常滑)



すり鉢(備前)



皿(貿易磁器)



漆器(朱漆)

食

戦国時代に記された『長楽寺永禄日記』などをみると、米飯のほか、小豆飯、麦混飯など、米に雑穀等を混ぜて食していたようです。また、戦時には兵たちは腰兵糧と呼ばれる握り飯や干飯、梅干しなどを携帯食として持参していたようです。

河村新城跡でも炭化したコメやムギ類、ササゲ属など、上記の史料を彷彿とさせる遺物が出土しました。



ササゲ属



魚骨(椎骨)



コメ(矢印:横方向の顕著な亀裂が特徴)

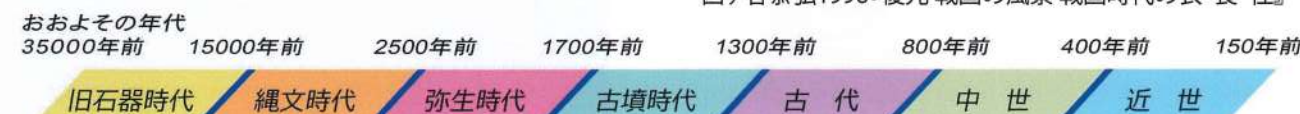


ムギ類

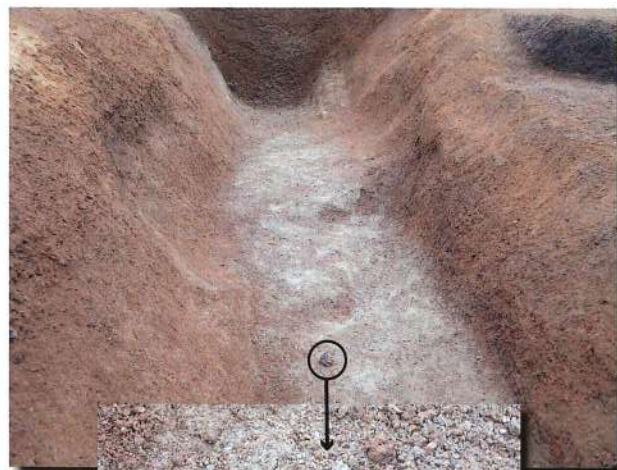
新東名高速道路建設事業に伴う発掘調査
河村新城跡(山北町 No.15)
2019年11月30日
公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 神奈川県横浜市中区中村町 3-191-1
TEL: 045-252-8689 <http://www.kaf.or.jp>

文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan
地域の特徴ある
埋蔵文化財活用事業

主要参考文献
山北町編2000『山北町史 史料編 原始・古代・中世』
西ヶ谷恭弘1996『復元 戦国の風景 戦国時代の衣・食・住』



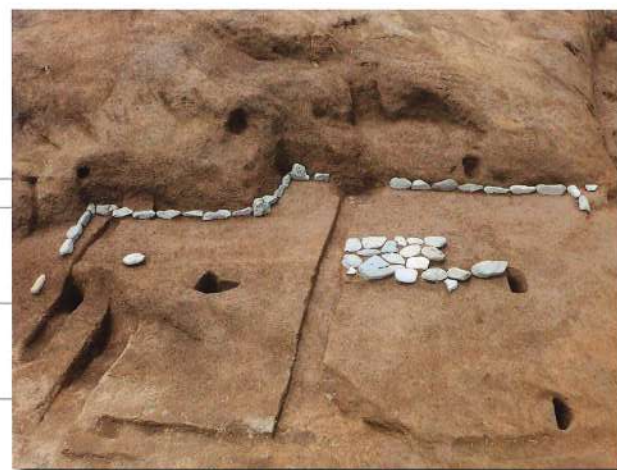
今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています



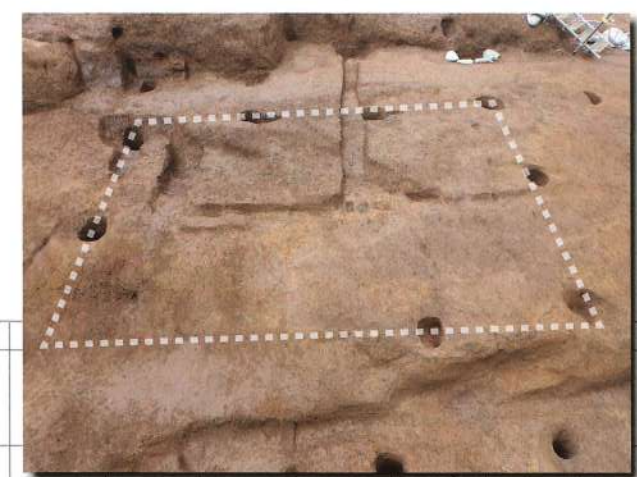
堀底から出土した炭化穀物塊



宝永火山灰直下から検出された畝状遺構



曲輪および切り岸と周辺の石組遺構



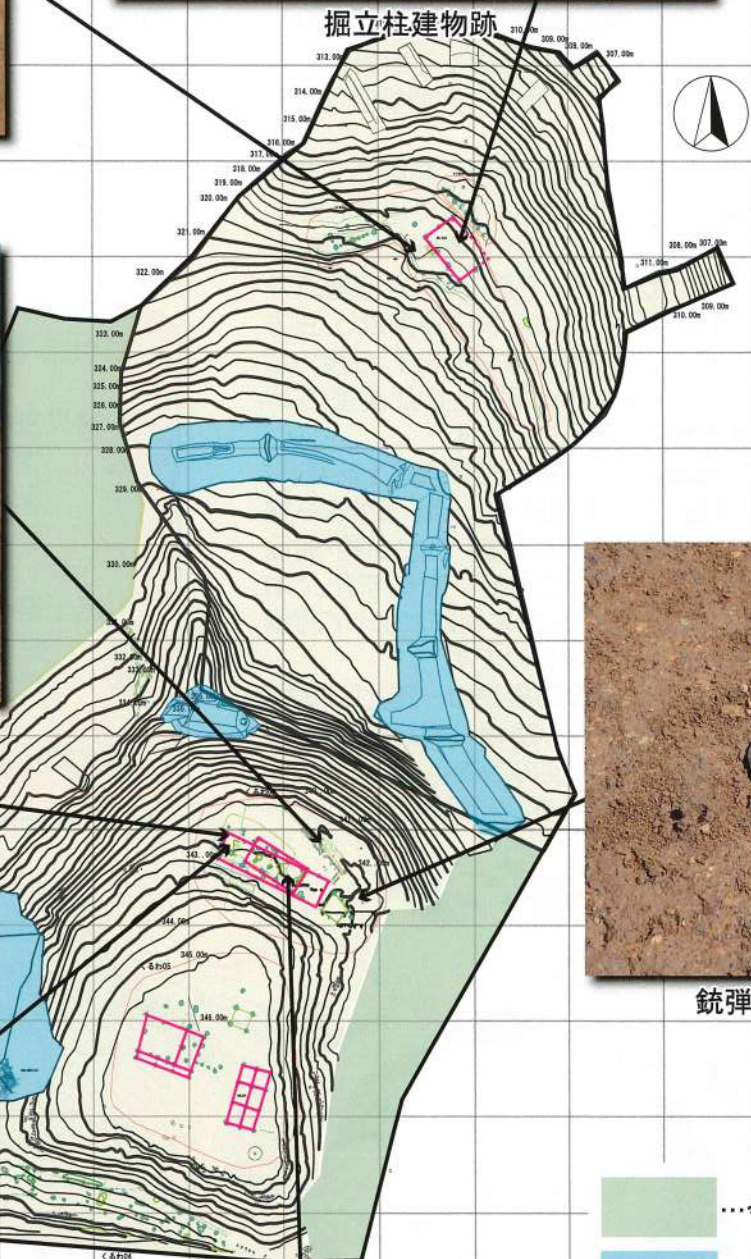
掘立柱建物跡



基石状小円礫の出土状況



石列遺構



銃弾の出土状況



堀底から出土した壺や甕の破片（常滑）



白磁皿



出土した銅銭（永楽通宝）

